

記録  
16ミリ  
カラー／20分

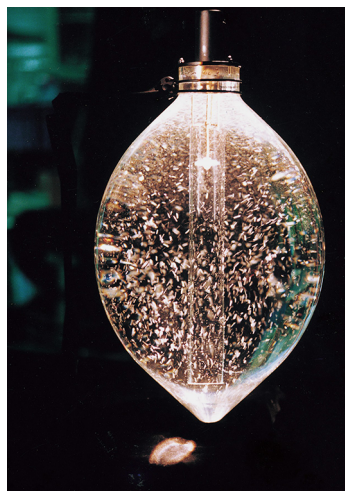
■企画  
大成建設株式会社

スタッフ

■製作  
村山英世  
■脚本・演出  
原村政樹  
■撮影  
山屋恵司  
■照明  
本橋俊男  
■編集  
沼崎梅子  
■選曲  
山崎 宏  
■解説  
湯浅真由美

科学技術庁推奨 第29回日本産業映画祭奨励賞

下水を浄化すると、汚泥と呼ばれる大量の汚濁物質が分離される。この処理が大きな社会問題になっている。汚泥を、嫌気性細菌（メタン菌）の力を利用して分解、処理する方法がある。これを消化という。この消化によって、汚泥の総量を2分の1に減らすことができる。この映画では、汚泥処理についてわかりやすく解説し、最も合理的な形の消化槽——PC 卵形消化槽を紹介する。



汚泥を処理する施設として、日本では以前から円筒形の消化槽が使われている。しかし、この消化槽には上部にスカム（固形物や処理しきれない有機物）が発生したり、下部に砂が堆積したりすることによって、消化槽としての機能が低下するという問題点が残されていた。

そこで、この問題を解決し、より機能的で、効率的に汚泥を消化できる施設として、卵の形の消化槽——PC 卵形消化槽の導入が始められている。

PC 卵形消化槽は、PC 鋼材を外周に配置して、コンクリートの壁を締め付けることによって外壁を薄くでき、地震にも対応できるように設計されている。

さらに、実際に卵形消化槽の建設が進められている現場での工程を追いつながり、処理された汚泥の再利用なども含めて、新しい消化槽の利点を解説していく。